

# 高次脳機能障害児の就学支援



なごや高次脳機能障害支援センター

愛知県高次脳機能障害支援拠点機関  
名古屋市総合リハビリテーションセンター内



事業団公式マスコットキャラクター りはみん

# 高次脳機能障害の原因

## 原因

脳血管障害・・・脳出血、脳梗塞、くも膜下出血など

脳外傷・・・交通事故、転落、転倒等

脳炎、脳腫瘍、低酸素脳症、CO中毒等

### 子どもの場合

歩行中や自転車乗車中の交通事故が多い



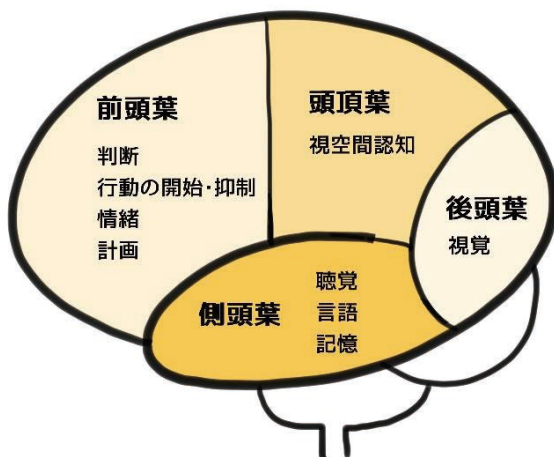
事故や病気によって、脳に損傷をきたし、認知機能の一部に障害が起きた状態

# 損傷部位と高次脳機能障害

- 注意障害 : 右半球、広範囲の脳損傷)
- 記憶障害 : 視床、前脳基底部、側頭葉内側面 (海馬)
- 失語症 : 左半球、前頭葉下部、側頭葉、角回
- 失認 : 両側後頭葉
- 半側空間無視 : 右半球頭頂葉
- 遂行機能障害 : 前頭葉

…等

ただし、身体の障害と異なり、情報は脳内の様々な部位、機能をネットワークのように巡って処理されるため、この部位ならこの症状という対1の関係にはならないこともある



# 高次脳機能障害とは

## 失語

大脳の言語野の損傷で、既に習得した言語機能が障害される。言語の理解はできても自分の言いたいことが言えない失語（運動性失語）と、言語理解ができず、おかしい内容を自発的に話すことはできる失語（感覚性失語）などがある。

## 失行

運動機能は保たれているにもかかわらず、目的にあった行為を正しく行なえない（着衣失行、構成失行等）。

## 失認

感覚としては正しく入力されているのに、それが正しく認識できない状態。半側空間無視もその一つで、主として病巣と反対側の空間にあるものを認識できない。

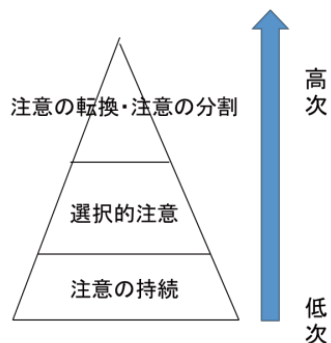
たとえば左の半側空間無視があると、左側にあるものを認識できず、左の方においた食器の中のおかずを手をつけなかったり、左側にてっぺった障害物や左からくる人に気づかず衝突してしまったりする。



## 注意障害

- ひとつのことが続けられない（**持続**）
- 気が散りやすい（**選択**）
- 複数のことに注意できない（**分割**）
- 一つのことから次のことへ適切に注意が振り向けられない（**転換**）

※複雑な注意ほど障害を受けやすい



### 子どもの場合

- 授業に集中できない
- ケアレスミスが多くてテストで間違える
- 新しいことを覚えようとする、間違えて覚えてしまう
- 速度が遅くなり、何をするのに時間もかかるようになる

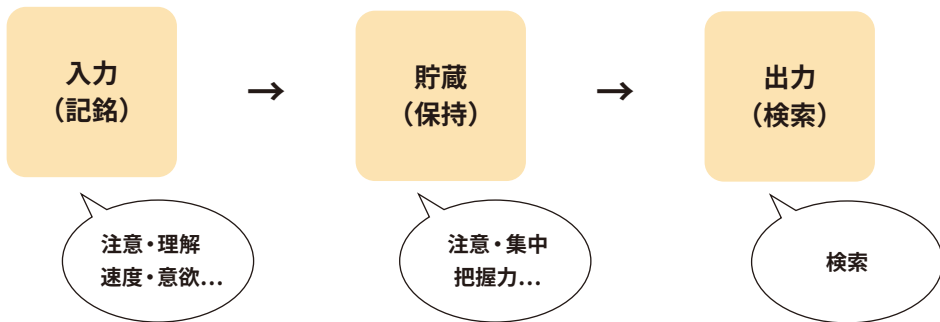
### 対応例

- 席を前にして視覚的な情報量を減らす
- 注意を向け直すよう、名前を呼んで声をかける
- 複雑なものや量の多い情報をシンプルにする
- 大事なことや優先するものを目立たせて目を引くようにする



## 記憶障害

- ・新しいことや大事な予定を忘れてしまう
- ・少し前のできごとを忘れてしまう（エピソード記憶）
- ・繰り返して体で覚えることはできる（手続き記憶）
- ・新しい情報を入力し（記録）、一定時間貯蔵し（保持）、必要な時に思い出す（想起） が必要。



※相手や日によってばらつきがあるため、都合のいいことばかり覚えてしまうと  
思われることも。

### 子どもの場合

- ・暗記物（理科や社会、英単語など）が苦手になる
- ・先生や友人との会話を忘れてしまい、取り残される
- ・約束や予定を忘れる

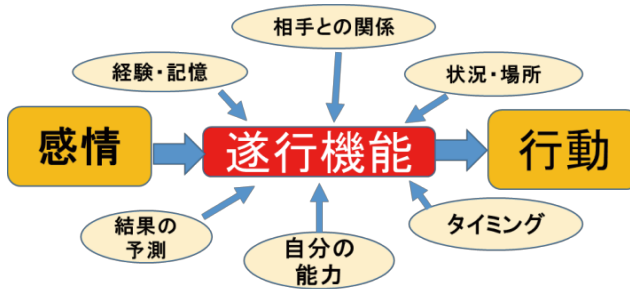
### 対応例

- ・口頭でなく書いたものを渡す
- ・思い出せるきっかけを話す  
（このまえの〇〇の話だけど・・・）
- ・正しく書いたかチェックして覚え間違いを防ぐ



## 遂行機能障害

- ・仕事の優先順位がつけられず、効率が悪い
- ・行動の計画を立てたり、その通りに実行したりすることができない
- ・自分の障害を客観的に認識できない
- ・やり方が途中で変わってしまう



何らかの感情を行動に移す前に、いろいろな情報を考え合わせて、計画をたて、実行する「コントロールセンター」

### 子どもの場合

- ・効率よいやり方や段取りができず、課題や作文など、どこから手をつけたいかわからない。
- ・片付ける、用意するなどが苦手になり、忘れ物が増える
- ・他の子どもよりも時間がかかるようになる

### 対応例

- ・どんな順番ですればよいか書いて示す、取りかかりを教える、
- ・開始の合図を出す。指示は1つずつ順番に出し、混乱を防ぐ。
- ・できたことを認めて、次に同じ事をするときに自らできるように誘導する。

# 社会的行動障害

## 固執性

自己主張やこだわりが強くなる。

### 対応例

後回し、棚上げなど、気持ちがクールダウンするよう誘導。

## 感情コントロールの低下

些細なことで、イライラしたり泣いてしまう。

### 対応例

話題を変えたり、本人の興味のあるものに目を向けさせたりして、興奮しているものから気持ちをそらす。



## 欲求コントロールの低下

欲しいと思うと我慢できない、ゲームや遊びがやめられない。

### 対応例

どれだけだったらよいというルールを決めて守らせる、目で見えてわかるように成否を記録してご褒美を与える。

## 依存性、退行

すぐに頼るようになったり、年齢より興味や関心が幼くなる。

### 対応例

年齢らしさを教えつつ、たまにはつきあってやるなどして本人の気持ちも尊重する。



## 対人技能拙劣

相手の気持ちを考えることが難しくなる。  
複数の会話ではついていけなくて、取り残される。



### 対応例

当人同士で解決が難しい場合は、大人が介入するなどしてとりもつ。  
正しい言い方や受け答えを教える。

## 病識欠如

できないことをしようとしたり、できると言い張り周囲の意見を受け入れない。脳損傷する前の自分と何ら変わらないと感じている  
ミスや問題の原因が自分ではないと思っており人のせいにする。

### 対応例

対応例 本人の理解できる範囲で障害の客観的な説明をし、何か問題が起きたときにそれにそって理解できるよう進める。

## 易疲労

疲れやすく、午後になると授業中に寝てしまったり、ぼーっとして集中しなくなる。

### 対応例

対応例 脳の情報処理容量をオーバーしているので、励ましても改善はしない。保健室や休憩室などで適宜休みを取らせ、脳の疲労を回復させる。



## 成人との違い

### 脳が未熟な時点での受症

健常児との差が縮まりにくい

### 回復だけでなく発達の視点が加わり複雑

支援者も理解しにくい

### 復帰先が学校

年度毎に体制が変わる（教員、友人、教室、学校等）

数年後には卒業するので情報がとぎれる。

複数の教科での成績の維持が求められる

### 成人の支援（就職、自立生活）との間のつなぎの問題

（制度、施策は18歳で変わる）、そこでの情報を次につなげることが難しい。

## 発達障害との違い

### 中途障害であるため「受症前」と「受症後」がある

「できていたこと」ができなくなる挫折、無力感、ストレスを感じ易い。

### 本人だけでなく家族の障害の受け入れが異なる

新しい自分の受け入れが進まない、後悔、加害者への恨みがある。

### 人数が少ないことによる孤立

わかってもらえない、悩みが分かち合えず内にこもる。

### 障害の内容や対応方法が発達障害の場合とは似て非なる部分がある

個別の対応が必要となる場合が多い。

## 子どもとネット・ゲーム

インターネットやゲームが普及し、スマートフォンや携帯型ゲーム機などで手軽に利用できることもあり、便利で楽しいツールとして多くの子どもたちが利用しています。ただ、一般的にもそれらにはまって、中毒や依存症のようになってしまう子もいるという話も聞きますが、高次脳機能障害の子どもたちの中には、欲求のコントロールが効きにくくなっており、際限なくやってしまったり、さらに感情コントロールの悪い場合は、それを制止しようとした保護者ともめて暴言や暴力に至ることもあるようです。

ネットやゲームを長時間、また継続的にすることで、心や体、脳にどんな変化が起きるかという情報を親子で共有し、親自身も含め家族で時間や内容を制限したり、ネットやゲーム以外での楽しみや会話を増やすように取り組んでみてはどうでしょうか。



# 連絡先

なごや高次脳機能障害支援センター  
直通 (052) 835-3814

〒467-8622

愛知県名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1-2

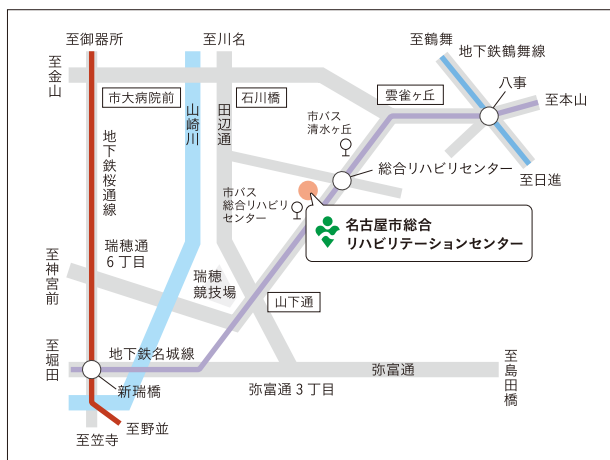
愛知県高次脳機能障害支援拠点機関

名古屋市総合リハビリテーションセンター内

URL <https://www.nagoya-rehab.or.jp>



事業団公式マスコットキャラクター リはみん



## ACCESS

- 地下鉄名城線「総合リハビリセンター」下車 1番出口
- 金山から市バス金山14系統「総合リハビリセンター」下車
- 新瑞橋から市バス瑞穂巡回「総合リハビリセンター」下車